

羽幌町防災計画調査特別委員会会議録

日 時 平成30年5月17日（木曜日）11時10分～11時54分

場 所 議員控室

出席者 逢坂委員長、金木副委員長、村田委員、阿部委員、船本委員、小寺委員、熊谷委員、平山委員、寺沢委員、森委員

欠席者 磯野委員

事務局 井上事務局長、杉野係長

逢坂委員長

ただいまから羽幌防災計画調査特別委員会を開催いたします。

本日の内容でございますが、今年の2月、北海道の防災会議地震専門委員会が日本海沿岸の津波浸水予想図を決定されまして、公表しました。羽幌町においても両島含めまして、より一層危険性を増した想定となっております。このため、羽幌町防災ハザードマップの改訂を行い、このほど成果品ができ上がりましたので、全戸に配布することに今後なりますが、その前に今日内容を委員さん方にご説明をいただいて、ご理解をいただいて進めていきたいなというふうに考えておりますので、よろしくお願ひします。

内容につきましてはこの後、大きなA2のものもありますので、担当課のほうより説明をいただいて、その後質疑等をいただきたいと思いますので、よろしくお願ひをいたします。早速ですが、担当課のほうから羽幌町の防災ハザードマップについてのご説明をよろしくお願ひいたします。

1 羽幌町防災ハザードマップについて

担当課説明

説明員 総務課 飯作課長、山田係長、土清水主査

飯作課長 11:11～11:12

それでは、委員の皆様におかれましては、大変お忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。本日ににつきましては、先ほど委員長からもありましたが、北海道が公表いたしました日本海沿岸の津波浸水想定に基づきまして作成いたしました新しいハザードマップにつきまして説明をさせていただきます。どうぞよろしくお願ひいたします。なお、お配りしている資料に基づき説明をしていきたいと思っておりますが、実

際にマップをごらんいただきながらという説明もございますので、スペース的にかさばるところもありますので、ご了承いただければと思います。

それでは、担当のほうから説明をさせていただきます。

土清水主査（説明） 11:12～11:27

総務課総務係の土清水と申します。よろしくお願ひいたします。済みません。座って説明させていただきます。

平成 23 年の 3 月に前回のハザードマップとしまして町民全世帯にお配りしておりましたが、先ほど委員長、あと課長から説明ありましたように、平成 29 年 2 月に公表されました北海道日本海側の津波浸水想定改訂に伴いまして、羽幌町におきましても昨年度その結果を踏まえた新たなハザードマップを完成させ、全戸配布できる準備が整いましたので、お配りする前段で委員の皆様にご説明させていただきます。後ほどになりますけれども、今皆さんごらんになっています大きいマップを実際に説明いたしますので、まず最初にお配りしております A 4 の資料からごらんいただければと思います。

大きく 4 点に分けて説明いたします。まず、1 つ目が、ハザードマップの作成経過につきまして、2 つ目に、ハザードマップの概要について、3 つ目に、実際のハザードマップを用いまして内容の説明をさせていただきます。最後に、4 つ目になりますが、今後のハザードマップの活用などについてとなります。

次のページから右下にページ数を記載しておりますので、ごらん願ひます。まず、1 つ目のハザードマップの作成経過についてであります。1 ページ目をごらん願ひます。作成の目的であります。東日本大震災の甚大な被害を受けまして北海道は日本海沿岸に係る津波浸水予想の見直しを行い、新たに津波防災地域づくりに関する法律に基づく新たな津波浸水想定を平成 29 年 2 月に公表しております。日本海沿岸に面しております当町が万が一地震、津波災害を受けた際、住民が安全に避難し、被害を最小限に食い止めることを目的としまして、避難などに必要な情報を記載した羽幌町防災ハザードマップをこのたび作成いたしました。作成に係りました業務の内容であります。津波、水害、土砂災害などの被害予測範囲と最新の指定緊急避難場所などを地図上で視覚的に紹介するマップ作成業務を、地図調製及び地理情報システムなどに深い識見と豊富なスキルを有している業者と委託契約しまして、幾度も内容の校正を繰り返し、完成に至っております。

続きまして、2 ページ目をごらん願ひます。本題となりますハザードマップの概要について説明いたしますが、昨年 3 月の委員会で既に浸水想定改訂内容を説明させていただいておりますので、概要を簡単に申し上げたいと思います。今回のハザードマップ

で羽幌市街、天売、焼尻の津波浸水想定図は、先ほど申し上げたとおり、平成29年2月に改定されました北海道日本海側に係る津波浸水想定を踏まえたマップとしておりまして、今後北海道で起こることが想定される地震による津波のうち、羽幌町に大きな影響を与えるおそれのある6つの津波を選び、その中で最も大きな浸水範囲と、後ほど説明いたしますが、基準水位というものの表示をしたものでございます。羽幌市街ハザードマップの裏面は、大雨時危険区域図としております。河川の氾濫ですとかゲリラ豪雨によりまして排水が間に合わなく、建物へ浸水する可能性がある注意を促すため、羽幌川と築別川の河川の標高とその周辺の土地を比べ、その標高の差を色別に表示しているものであります。こちらの図ですが、河川との標高の差を表示したものでありますので、前回お配りしております、平成23年の3月に作成しました表示と大きな変更点というのはございません。この想定でございますが、専門家が検証した結果といえども、震源地が近かったりすると予測を超える津波が襲ってくることや、雨量によって区域図に示した以外の場所でも浸水する可能性があるということを注意喚起としましてマップの上部に記載しております。

続きまして、3ページ目をお願いいたします。マップに記載しております用語の説明をいたします。この用語の説明であります、マップにも掲載しております。1つ目、最大遡上高ですが、各地区で津波が到達する高さの標高であります。2つ目、浸水深であります、各地の地表面からの水面の高さとなりまして、3つ目のせき上げ高は、建築物などへの衝突による津波の水位の上昇を考慮した高さ、4つ目の、先ほど出てきました基準水位というものですが、こちらが浸水深とせき上げ高を合わせた水位となっております。

続きまして、4ページ目、5つ目の津波浸水開始時間ですが、マップ上で〇分というふうに表記している箇所がありまして、浸水深1センチの水位変化が生じるまでの時間というふうになっております。6つ目、津波影響開始時間ですが、地震発生から津波により、海辺にいる人々の人命に影響が出るおそれのある津波による水位変化が、初期水位からプラス・マイナス20センチの水位変化が生じるまでの時間を指しております。7つ目、津波第一波到達時間ですが、海岸線において第一波の最大到達高さが生じるまでの時間ということになっております。8つ目、最高津波水位といいますが、第一波を含む一連する津波で最高となる水位となっております。

次の5ページ目ですが、最高遡上高と基準水位などを図式したもの、津波の水位変動を解説した図、あとマップ上に掲載しております代表地点周辺で予測される表を参考までに載せております。

それでは、済みません、実際にハザードマップをお開きいただきまして、説明させて

いただきたいと思います。最初になります、羽幌市街ハザードマップ（津波浸水想定区域図）というものをごらんいただきたいと思います。まず、先ほど羽幌町に大きな影響を与えるおそれのある6つの津波を選定して浸水範囲を表示していると説明いたしましたが、その断層モデルが右上の表と想定津波波源域と書いた地図に記載している断層になります。津波断層モデルであります、①、②、③、④、⑥、⑦の6つであります、この番号は、北海道内で設定しましたF何々という断層に、北海道日本海側の全断層に番号が付されておりまして、その中で羽幌町に影響を与えるであろう断層は①、②、③、④、⑥、⑦ということになっております。あと、地図の色分けであります、浸水深とせき上げ高を合わせた水位の基準水位を示しておりまして、まずオレンジ色が5メートル以上から10メートル未満、黄色が3メートル以上から5メートル未満、緑色が1メートル以上から3メートル未満、水色が0.5メートル以上から1メートル未満、紫色が0.3メートル以上から0.5メートル未満、青色が0.3メートル未満ということで識別しております。前回のマップと比べますと、浜町、川北、朝日、あと南1条地区の一部に若干の広がりを見せております。

続きまして、サンセットビーチ周辺をごらんいただきたいと思います。点線で時間が書いてありますが、これが浸水深1センチの水位変化が生じるまでの時間の津波浸水開始時間となります。次に、羽幌川から初山別方面へ向かっていただきまして、上の部分の汐見雪捨て場付近に最高津波水位6.3メートルと記しておりますが、この地点が市街地区の最高津波水位と想定されております。地図全体をごらんいただきますと赤丸、青丸がありますが、これは指定緊急避難場所などと、あと指定避難所を表記しております。浸水想定区域内にかかっている避難場所や避難所はございませんが、サンセットプラザが入っております。サンセットプラザは避難場所には指定しておらず、津波発生または発生するおそれがある場合における緊急を要する場合の鉄骨づくりの強固な建物としての避難先としまして、津波避難ビルの指定といった協定を結んでいる建物になっております。そして、小さい黒丸で数字が書いてある地点、例えば国道の羽幌川付近で7.8ですとか記しておりますのは、海抜何メートルといった表記でございます。

次に、代表地点としております羽幌港の表をごらんいただきたいと思います。各津波断層モデルで発生した地震により発生する津波の影響を表で一覧としております。羽幌市街ではこのほかに、築別川河口が代表地点とされております。こちらの代表地点であります、北海道から公表時に指定されている地点となっております。マップの下のほうへ行っていただきまして、緑町と、その奥に赤線で土砂災害危険箇所を表記しております。以上が羽幌市街ハザードマップの説明というふうになります。

続きまして、済みません、裏面をひっくり返していただきまして、大雨時危険区域図

であります。先ほども説明いたしましたとおり、前回の平成 23 年に作成したものから大きな変化はなく、羽幌川と築別川の河川の標高とその周辺の土地を比べまして、その標高の差を色別に表示しているものでございます。そのほか避難場所などを明確に記載し、土砂災害危険箇所の表示もしております。近年では国内各地で想定できないほどの雨量を記録する現象も起きておりますので、警戒体制時には総雨量ですとか、あと今後の気象予報なども注視しながら、臨機応変に対応していきたいと考えております。

済みません、続きまして、天売、焼尻の 1 枚物になるのですが、こちらをごらんいただきたいと思えます。まず最初に、天売島のハザードマップをごらん願います。先ほど説明いたしました市街地区と同様に、6 つの津波を選定して、浸水範囲の色分け表示、避難場所や土砂災害危険箇所を記載しております。天売島の最高津波水位は、マップ左下の赤岩周辺の 8.2 メートルと想定されております。次に、代表地点として想定される地震により発生する津波の影響を表にしておりますのは、天売島周辺の弁天地区、前浜漁港、あと屏風岩周辺というふうにされております。そのほかは市街地区と変わりありませんので、説明は省略させていただきます。

続きまして、裏面の焼尻島のハザードマップをごらんいただきます。浸水範囲の色分け表示ですとか避難場所や土砂災害危険箇所は同様となっております。焼尻島の最高津波水位は、マップ左の西浦の最奥付近の 7.0 メートルと想定されております。次に、代表地点として想定される地震により発生する津波の影響を表にしておりますのは、焼尻港周辺の東浜地区、白浜地区、西浦漁港というふうに指定されております。以上がマップの簡単な説明となります。

済みません、最後に、先ほどの A 4 資料に戻っていただきまして、7 ページ目をごらんいただければと思えます。ハザードマップの今後の活用などにつきましては、町内全戸への配布を 5 月 24 日の回覧文書発送日に合わせてお配りする予定としております。羽幌市街、天売、焼尻のマップは 5,000 部作成してございまして、全戸配布した後の余剰分ではありますが、今後見込まれる羽幌町に転入される方々、その方々へ転入の窓口手続の際に配布していきたいと考えております。このマップであります。昨年全戸配布しております防災のしおりに格納できるサイズに折り畳んで配布しまして、各世帯でしおりのポケットに格納してもらえようように連絡したいと考えております。続きまして、津波避難計画の見直しにつきましても、新たな浸水想定を踏まえた改訂に今後取り組んでまいりたいというふうに思っております。完成いたしましたハザードマップの活用としまして、1 つ目に、町民皆様の防災意識の向上につながるような働きかけを継続して行っていくということ、2 つ目に、今後のさまざまな気象警報などに対応する際の警戒体制時での活用、3 つ目に、防災訓練などで対象地域及び事象の選定、自衛隊など国の機関

や北海道の各機関との緊急時の相互連携に役立てて、情報を共有していきたいというふうに考えております。

以上で羽幌町防災ハザードマップにつきましての説明を終わりたいと思います。

逢坂委員長

ありがとうございます。それでは、マップにつきましてご質問等あれば受けたいと思いますので、よろしく願いをいたします。急に見て、なかなか見づらい部分もあろうかなと思いますが、何かあれば、この際でございますので。何か特別ありませんか。

—主な協議内容等— 11:28~11:54

寺沢委員 いろいろ協議を重ねてきた経過があってでき上がったハザードマップかというふうに思います。現物を私も今初めて見て、説明を受けたわけですが、色分けされていて、地図も大きくて、ぱっと見た感じは見やすいのですが、最初私戸惑ったのは、どういう想定なのかなということが地図を見回してもなかなかわからなかったというのがございます。当然地震による津波の影響というのはわかるのですけれども、どの程度の地震なのかなとか、そういうことが見た感じわからなかったというのがありました。住民の方もこれを活用して生かすためには、行政側としてただ配りっ放しということではなく、町政懇談会があるとすればそういう中でしっかりと説明をしたりとか、町政懇談会もなかなか人の集まりという面では芳しくないということもあるのかもしれませんが、伝える工夫をしなければ、せっかくこれを配っても生かせないのではないかなという心配がございますが、その辺何かお考えはあるのでしょうか。

飯作課長 ただいま寺沢委員ご指摘あったとおり、配りっ放しではなかなか理解しづらい部分もあろうかと思えます。それで、我々としましても、まだ具体的に設定はしておりませんが、配ってそう期間がたたないうちに住民説明会といいますか、そういったものを開催し、実際見てもらいながら町民の皆さんに理解を深めていただきたいということで予定はしております。

寺沢委員 ハザードマップに関する住民説明会を開いていくという、そういうお話

だろうというふうを受けとめましたが、どういう単位で、いつごろ具体的にやろうとされているのか、もう少し詳しく教えていただけますか。

飯作課長 時期的なものにつきましてはなるだけ早くと思っておりますので、今回、来週町内に全戸配布した後、それ自体が10日ですとか2週間ぐらい遅いところではかかるような話になりますので、その後、例えば6月中ですとか、可能な限り準備が整い次第進めていきたいなと思っております。やり方としましては、委員言われたように、ただ呼びかけて日にちを設定しても集まれるのかという部分もあると思うのですが、まず設定をさせていただいてやっていく中で、それとは別にご希望があれば地域だったり組織だったりに向かっていくような形の呼びかけもしていきたいなというふうに考えております。

寺沢委員 地域の実情、多忙な時期もあれば、参加しやすい時期もあるでしょうし、さまざまな町内会を初めとする組織を活用するというか、責任者をお願いしながら人を集めていただくとか、そんなことも想定しながら効果を上げていただきたいというふうに思います。答弁は要りません。

逢坂委員長 答弁はいいですか。

寺沢委員 要らないです。

村田委員 津波の浸水想定地図の中で、前回23年に配布されたものとほとんど変わっていないのかなと思うのですがけれども、自分的に疑問なのは、福寿川があって、そのまま旧羽幌川、埋め立てしたから道の駅やら最後、農村公園ぐらいまで、高低差というのかな、海拔でいくと、出ている数字でいくと、道の駅が2.9、その次の海鳥センターのところが3.1、朝日団地のところが3.0、農村公園のところが3.3というふうに出ている、ほとんど海拔の差がないのに浸水の予測は朝日団地のところでとまっているという、そういう想定になった根拠というか、建物もない、何もないようなところ、高低差もないところでこういう状況になることが私には理解できないので、そこら辺理解できるように説明をお願いします。

土清水主査 村田委員さんのご質問にお答えいたします。委員おっしゃるとおり、標高差というのは上から2.9、3.1、3.0というふうに差はないのですけれども、まず第一の原因として考えられるのが、海からの距離が遠いということ。それと、先ほど申しあげましたように、基準水位というものがありまして、先ほど建物も何も無いのになぜここだけ色が違ってくるのだということがありましたけれども、基準水位というものがありまして、道で示している図式によりまして高さや津波の速度、そういうさまざまな見地から指定したものがこちらの図というふうにならずなっております。それで、今回羽幌町総合体育館のところより朝日団地のところまでかかっているのですけれども、前はここまではかかっていなかったというふうになっております。今回かかってくるのですけれども、それは日本海側の津波の浸水想定を改定した中でここまで広がりを見せているよというものにもなっております。それで、一番大きなポイントというのは、海からの距離もありますし、福寿川の右側のほうに建物がだあつと住宅街が並んでいるのですけれども、そこでせきとめられる部分もありますし、そういう専門的な見地から道のその辺の見解というふうになっていると思います。

逢坂委員長 説明はなかなか難しい。

村田委員 わからない。

逢坂委員長 信用するかどうか。

森委員 関連すると思うので、あわせて後で答弁ということをお願いしますが、それよりもっと私が疑問だったのは時間でありまして、わかりやすい例からすると、南大通り1丁目付近のところではただ線があつて、南1条1丁目あたりに25分と書いてあるのですけれども、国道付近で30分ということでありまして、津波の速度というのは一般的に相当速いというか、数十秒ぐらいで来そうなイメージなのですが、5分も津波の到達時間が違うというのは、一般の人が見たときにどういうことなのだと聞かれると思いますので、説明ができるような形の答弁をお願いします。

飯作課長 この時間に関しましては、先ほど土清水が説明の中で申し上げたとおり、津波浸水開始時間ということで、浸水深、いわゆる地面から水面までの高さが1センチになる時間をあらわしているものですので、1センチになる地域の差というのがこの5分間なのかなと。ただ、森委員が言われたように、それ以上の深さの水が押し寄せる時間に関してはその限りではないので、そういった部分ではもっと早いのかもしれないというふうには思っております。

森委員 何となくわかりましたけれども、これを見たら、説明をどこかにもっと具体的に書かないと一般の人はわからない。ここで25分で、何で何十メートルしか違わないのに5分も違うのだという疑問はどうしても湧くと思いますので、何らかの形で読み方がわかるような工夫を、別刷りとは言いませんけれども、工夫する必要が、先ほどの村田さんの質問も含めて考えなければわかりづらいかと思いますので、検討してはどうでしょうかと思うのですが、いかがでしょうか。

飯作課長 これから説明会的なものやっけていく中では、当然説明をしていきたいなと思っております。ただ、この時間的なものも、いろいろな情報を作成していく中で余り詰め込み過ぎると、何を書いているのかがわからないということでこういう形にさせてもらったのですが、口頭だけで説明する中では、後々見たときにもわかるようにということで理解をしてもらわなければなりませんので、できるかどうかはわかりませんが、補足説明をするようなものももし添えてお配りできれば、一緒の時期にはならないのですけれども、説明会のときにでもそういったものが配れるような形をもしとれるのであれば、なるだけ皆さんに理解していただけるような工夫をしていきたいというふうに思います。

村田委員 もう一つ、ここでいくと、川が浸水する、しないというのはならないのかもしれないですけども、羽幌川にしろ福寿川にしろ、一番上るのは川を上るのです。ここは対象になっていないからですけども、そういう部分からいって、私の知る範囲でも、南7条まで上がって川が臭くなったとか、古い人でいくと、寿まで川を津波が上がったとかということは実際にあったので、そこら辺も説明の中で、川が一番上るのも速いし、

何もないので一番先頭になって走っていくので、それが含まれていないということぐらいは説明しないと、自分も見て、どうもしっくりこない部分の1つなので、そこら辺はどうでしょうか。

飯作課長

そこら辺についても、説明の中では伝えていきたいなと思っております。それで、川の上昇に限らず、浸水する範囲の想定につきましても、先ほど土清水の説明にもありましたけれども、あくまでも道が公表した浸水基準に基づいたマップづくりということなので、何らかの根拠がないとつくれないという部分もあります。だからといってこれだけで必ずおさまるのかということと言われますと、必ずしもそうではないという部分もありますので、川の部分も含めてそういった部分の説明はしていきたいというふうに思っております。

森 委員

変わっていないということなのですが、大雨時危険区域というところでわかりづらいのではないかなと思って、確認の質問をさせていただきます。例のほうでは、紫色がゼロメートルだと。海拔マイナスからゼロメートルまで。ピンクがゼロから1メートルということでありまして、それを見るには、河川の標高からその周辺の地盤の高さをあらわしているということを見方として書いてあるのだと思います。それで、実際に市街地区を見ますと、特に南3条通りに関しては、具体的な建物からいうと、まき幼稚園あたりまでゼロメートルの範囲に入っているのかなというふうにも見えます。つまり、これは福寿川の最大あふれるところの高さだと思うのですが、それとも羽幌川の高さかもしれませんけれども、その高さともまき幼稚園あたりの高さがゼロメートルまでということですから、同じというふうにこの説明からすると受け取れてしまうのです。これを見たら、ちょっとというようなことがあると思いますので、実際高さは大分違いますから、どうしてこういうことになっているのかということも明確に説明する必要があると思いますので、ご答弁をお願いします。

飯作課長

ただいまのご質問ですが、こちらのほうのつくりとしては、前回、平成23年のつくりと基本的に変わらないということなので、表示の色分けもほとんど変わりはないのですが、川との高低差という部分の考え方

なのですけれども、基本的に対象となる河川については福寿川でなく羽幌川であります。土地と川との標高差という部分も、川の海拔ではなくて、川の左岸と右岸を結んだ線の高さ、地面と市街地区の周辺地区の地面との高差ということでございますので、河岸の高さよりも市街地のほうが低い、もしくは同じ、ゼロメーターということでの色表示でございます。ただ、森委員言われたとおり、マップの中の説明だけでは理解しにくい部分もあろうかと思っておりますので、こちらについても、大変申しわけないのですが、説明の中でお知らせをしていきたいというふうに思っております。

森委員

そういうことなのだろうと思ったのですが、実際に裏面のハザードマップのほうからすると、具体的な数値は入っていませんけれども、例えば南4条通りになるのですか、旧宮坂あたりのところが7.6メートルで、次の南町運動公園の突きあたりが10.5メートルですから、それが1本南3条通りに行った中で若干低いということだと思いますけれども、この図からするとそこも入っているのです、町民のイメージからすると、あそこの羽幌川の高さが地域から見て、当然羽幌、さがってますから、そっち側から下町方面を見るとサンセットプラザの建物が見えるというようなことなので、そこよりも羽幌川が高いというようなことというのは現実的なイメージからするとあり得ないので、かなり明確に書かないと困りますし、大雨が降ったときに避難とかなんとかというときにもその辺の住民は、川が氾濫して南4丁目とか5丁目に水が来るなんてことは考えたことは一度もないと思うのです。羽幌川があふれた場合ここに来るといふ。その辺は丁寧な部分が必要だと思いますので、今の答弁で実は伝わっているのですが、くどくて申しわけないですが、一応追加意見ということで伝えておくので、よろしく願います。

寺沢委員

両島の部分のハザードマップなのですけれども、前回特別委員会で示された中で住民には十分伝わっているとは思っているのですけれども、ゼロ分で津波が到達をして、第一波が2分とか3分には既に来るといふ、地震の起きる場所によっては予断を許さないという内容がここにあるわけですから、住民の方にこのことを伝えるときには、現実こうだよということだけではなくて、どういうふうにこれに対応しなければいけないか

ということも行政として同時に伝えていかないと、住民の方からは我々はどうすればいいのだという、そういう声が非常に強くて、我々のことを余り考えてもらっていないのではないかという、そういう不信を招くような気がするのです。ですから、両島に関してはその辺も十分酌んで、行政としてのメッセージというか、その辺も準備をしたほうが私はいと思いますし、これについては継続的対策というものを行政として考えていくのだという姿勢も伝えていただければなというふうに思いますので、その辺いかがでしょうか。

飯作課長 到達時間云々からいった部分につきましては、それこそ前回の特別委員会のときにもご指摘をいただいておりますので、その部分については、ただゼロ分なのだよ、1分なのだよということではなくて、それに対応した町の考え方といいますか、具体的に今何かあるのかという部分ではこれから考えていかなければなりませんけれども、ご指摘あったように、そこら辺は考えながら島民の方にお伝えしていかなければならないというふうに思っております。

逢坂委員長 ほかにございませんか。(なし。の声) なければ、私のほうから何点かいいですか。委員長として、先ほどわかりづらいという点で、住民説明を行うと。これから。私は防災経験が豊富なだけけれども、自負するわけでもないだけけれども、私が見てもわかりづらいという部分があるので、この辺を含めて書面とかでもできれば添付しながら具体的に、地図でなくてもいいから、この地区は津波は何メートルぐらいで危険水位になるよとかというふうに文字で書いてもらえれば、すごく町民はわかりやすい。避難するのに、天売であれば1分以内に津波が来ますよと。だから1メートルでも2メートルでも来たときに、いろんな津波がありますけれども、そういう丁寧なことをしてやらないと、ただハザードマップをつくったと。それを全戸に配布するのだというだけでは、住民の安全・安心を考えたときには、先ほどからご意見言われている方いますけれども、不足な部分が多分にあるのかなというふうに思いますので、十分考えて、防災を推進するほうをやっていただきたいと。

それから、これに基づいた訓練をしなければだめです。私が思うに。それはなぜかという、せつかくこれをつくって、ただ説明会を開いて、

こうだからと言ったって、集まる人間というのは限られている。天売、焼尻地区でやる、あるいは市街地区で川北地区を重点的にやる、大雨被害についてはまた別な訓練をやる、津波についてはこういう訓練をやるとか、そういうふうに町側は考えないと、実際にやってみて、いろんな部分でハザードマップというのは役に立つのです。そういう部分でぜひやっていただきたいということで、課長の考え。

それから、海拔何メートルというのが、僕再三言っているのだけれども、羽幌町には全くなって、ほかの町村に行ったら必ず何メートルと電柱に巻いたりして、この間も見たのだけれども、それがあるのです。必ず。これはぜひやっていただきたいということで、その点どうですか、課長。

飯作課長

まず、前段の内容の説明の部分につきましては、先ほども申し上げましたけれども、こういうことを示しているのだよというような補足ができるようなものがつくれば作成して、わかりやすいような形で工夫していきたいというふうに思っております。

それと、訓練につきましても、今年度も訓練は実施したいという方向でいますけれども、具体的にどういうふうに進めるかというのはまだこれからなので、そこら辺もいろいろ考慮しながらやっていきたいなというふうに考えております。

それと、海拔表示、前の委員会でしたか、何かの機会にもご指摘があったのかなというふうに思っております、その時点でも申し上げたのですが、数が足りないぞとお叱りを受ければそれまでなのですが、一応表示させていただいていますし、昨年度でしたか、29年度でしたか、新たに設置もさせていただいておりますが、なかなか目につかないということであれば数が少ないのかなという部分もありますので、そこら辺もまたいろいろ見直しをして、考えていきたいなというふうに思います。

逢坂委員長

ぜひそういうことは、僕は3年目になるのだけれども、再三僕は言っているわけだから、海拔なんかはどこにあるのとほかの人に聞けば逆に答えるのが大変で、どこにありますかなんて言われますから、多くあればあるほど、この地点は何メートルだとか、それによって防災マップというのが結構役に立つのかなという部分もあるので、ぜひそれはどんどんやっていただきたいと。

訓練内容についても、川北地区あるいは川南地区含めて分けてやってもいいし、特定の地域、危険地域を選んでやってもいいし、いろんな方法があると思うので、大雨対策とか、島は島でどう逃げたらいいとかという部分があるので、6つの地震想定をしてマップを作成されているようですけれども、これだって単純に道が想定した範囲の中でやっているわけで、いつ、想定外という言葉を使いますけれども、想定外の津波あるいは大雨が来るかもしれないわけだから、そういう部分も想定しながら、ぜひ訓練あるいは町民に対する周知、これを徹底していただきたいなと思いますので、よろしくをお願いします。

ほかに何かありませんか。何かあれば。(なし。の声) なければ、これで終わりたいと思います。本日は大変ご苦労さまでございます。